

授業科目	がん看護学			実務家教員担当科目	○	
単位	1.	履修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	中原 智美					
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>医療現場におけるがん治療、終末期看護、緩和ケア、看取りなどの看護師経験をふまえて、実務家教員が実際の症例等を示しながら以下について解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の特徴、具体的な治療方法や入院・外来・在宅など治療の場をふまえた看護のありかた、チーム医療など、 がんサバイバーの療養を支える看護援助に必要な知識やアセスメントの視点について解説する。 ・緩和ケア、ホスピスケア、終末期ケアの概念および終末期にある患者の特徴や、 緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助に必要な知識・理論を解説する。 <p>また、小児科看護師としての終末期医療、緩和ケアの経験をふまえて、実際の症例等を示しながら、小児の緩和・終末期看護について解説する。</p>					
授業形態	講義	授業方法	ディスカッション			
学生が達成すべき行動目標						
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者の特徴を述べるができる。 2. がん治療による影響をふまえた看護援助について述べるができる。 3. がん治療の場を考慮した継続看護のありかたについて述べるができる。 4. 終末期にある患者とその家族の特徴を述べるができる。 5. 緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助について述べるができる。 6. 緩和・終末期医療におけるチーム医療のありかたを述べるができる。 7. 死をめぐる倫理的課題をあげ、それに対する看護の役割を述べるができる。 8. 小児の緩和・終末期ケアについて述べるができる。 <p>目標1～8の内容を理解し、内容の概要について説明できる。</p> <p>事例に関する看護問題およびそれに対する看護援助を80%程度列挙できる。</p>					
理想的レベル	<p>目標1～8の内容を総合的に理解し、内容について正確に説明できる。</p> <p>事例に関する看護問題およびそれに対する援助方法を適切に列挙できる。</p>					
評価方法・評価割合						
評価方法	評価割合（数値）			備考		
試験	66%					
小テスト						
レポート	30%					
発表（口頭、プレゼンテーション）						
レポート外の提出物						

その他		04%		GW への参加度、提出状況などの態度面							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリン グ	NU21406J
学習課題（予習・復習）										1 回の学習目安 （時間）	
復習：本日の授業内容の振り返り 予習：次回授業内容について配付資料、テキスト、参考資料に目を通しておく ※第 7 回のディスカッションを行うにあたり、別途事前・事後課題を提示する										1	
授業計画											
第 1 回	テーマ：緩和・がん看護学のガイダンスおよびがん看護学の概念 ・がん医療の基礎知識 ・がん医療が直面する課題と施策 (中原)										
第 2 回	テーマ：がん治療と看護①-1 ・薬物療法を受ける患者の看護 (中原)										
第 3 回	テーマ：がん治療と看護①-2 ・薬物療法を受ける患者の看護 (中原)										
第 4 回	テーマ：がん治療と看護② ・放射線療法を受ける患者の看護 (中原)										
第 5 回	テーマ：がん治療と看護③ ・造血幹細胞移植を受ける患者の看護 (中原)										
第 6 回	テーマ：がんの治療の場と看護 ・外来における療養支援と医療連携 ・がん患者の社会復帰、がんサバイバー ・地域で生活する患者・家族を支えるシステム (中原)										
第 7 回	テーマ：がんとともに生きる患者の理解や看護の視点を深める（グループディスカッション） 第 1～6 回講義で学んだ知識を根拠にしながら ・がん体験者の声（悩みや負担）を知り、看護としてできることを具体的に考える ・必要な連携や社会資源の活用について具体策を考える (中原)										
第 8 回	テーマ：緩和・終末期看護における諸概念① ・緩和・終末期看護の考え方 ・死にまつわる文化 (原)										
第 9 回	テーマ：緩和・終末期看護における諸概念② ・終末期にある人の療養の場 ・緩和・終末期ケアにおける倫理的課題 (原)										
第 10 回	テーマ：終末期患者とその家族の理解① ・終末期にある人の全人的苦痛 (原)										

第 11 回	<p>テーマ：終末期患者とその家族の理解②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期にある人の死にゆくことに対する態度 ・終末期にある人の家族 <p>(原)</p>
第 12 回	<p>テーマ：終末期にある患者の症状マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛み、倦怠感、精神症状のマネジメントと薬剤の活用 ・補完・代替療法と看護 <p>(中原)</p>
第 13 回	<p>テーマ：終末期にある人とその家族への看護援助①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QOLの維持・向上への援助(リハビリテーション) ・希望を支える援助 <p>(原)</p>
第 14 回	<p>テーマ：終末期にある人とその家族への看護援助②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定を支える援助 ・予期的悲嘆への援助とスピリチュアルケア ・遺族へのかかわり(グリーフケア) ・死亡後のケア <p>(原)</p>
第 15 回	<p>テーマ：小児の緩和ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児の緩和・終末期看護について <p>(樋口)</p>
テキスト	<p>鈴木志津枝・内布敦子(編)：緩和・ターミナルケア看護論，ヌーヴェルヒロカワ 小松浩子他：系統看護学講座 別巻 がん看護学，医学書院</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>参考図書／神田清子，二渡玉江(編)：看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術—がん・ターミナルケア，第2版，メヂカルフレンド社，2015.</p> <p>その他、図書館の<中原>指定図書コーナーに、がん看護、がん治療やレジメンに関する書籍を多数配架していますので、ぜひ活用してください。</p> <p>データベース／医学中央雑誌，最新看護索引 web，CiINAHL などから関連事項を探してみましょう。</p> <p>雑誌／がん看護，ターミナルケア，死の臨床</p>
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・レポートに関する全体へのコメントは、講義内や Classroom においてフィードバックします。 ・達成度評価については、成績発表後に評価得点分布を提示します。
学生へのメッセージ・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・2人に1人が一生のうちがんと診断されるといわれる時代、看護職としてがん患者へ看護を提供する機会は少なくありません。また、近年のがん医療は目覚ましいスピードで発展しており、医療現場では常に最新の情報を得ながら より良い看護を探求し、学び続ける姿勢が必要になります。また、医療の場も病院から地域へ拡大し、患者のニーズ もより多様になってきています。この授業を通してがん患者やがん治療に関心を深め、講義内容が理解できるよう積極的に質問をしたり、日頃からニュースや新聞、文献、ドキュメンタリーなどにも目を向け情報を敏感にキャッチし、自らの感性を磨く姿勢を養って下さい。

・この授業を通していのちとは何か、尊厳ある死とは何かなど人間の生と死について考え、その援助のあり方について学んでいきます。日頃から緩和・ターミナルケアに関する最新の情報にも関心を持ち、自分の人生観、死生観、看護観を確かめながら授業に臨んで下さい。

・講義内容の理解を深めるために、課題やレポート等を課すことがあります。課題・レポートに関する全体へのコメントは

講義や Classroom においてフィードバックします。

・複数の教員が担当しますが、定期試験は統合して行います。プリント・テキストのみならず、授業中の対話も注意深く

理解するように心がけて下さい。

・第1～6回、第8～15回の「講義での学び」の提出は、評価対象となります。

未提出や提出遅れ、内容が不適切なものは減点対象となりますので、講義をしっかり聞いて提出しましょう。

・第7回のグループディスカッションでは積極的に意見交換をして学びを深めましょう。